



先生のおすすめ本；図書委員会の活動

図書委員会が、「先生のおすすめ本」という企画を行っています。先生方のおすすめの本を紹介してもらい、校内掲示して紹介しています。1月に図書委員会より依頼があり、何の本にしようか考えましたが、校長室にあった次の本を紹介しました。

「栄村誌～民俗文化史料篇～」 (作者；栄村誌編纂委員会)

【あらすじ？】

昭和 57 年(1982 年;今から 43 年前・栄中ができて 5 年目)に出版された本です。「第 5 編 生活と民俗」がまとめられた大変分厚い(約 800 ページ)本であり、校長室にあったので昨年から、時々読んで(見て)います。本が出されたのは昭和 50 年後半だが、おそらく明治・大正・昭和の中期頃までの時代の栄地区の生活様式がまとめられています。

「食」について紹介すると「きんぴら・のっぺえ・こうこう・つけ菜」が毎日のおかずで、ごはんも「白米」は特別な時のみで普段は「かてめし・まきめし・麦まんま」(白米に色々混ぜたもの)で、晴れの日のみ「白まんま・天ぷら・納豆・豆腐汁・塩ざけ」等のごちそうが出たそうです。おそらく 50 年程前まではそのような家も多かったようです。

【おすすめの理由】

他にも昔話や昭和初期のなぞなぞ等、50 年位で生活が大きく変わったなったな～とタイムスリップすることができます。

という紹介をさせていただきました。私の年齢位だと、何となく、知っているしイメージできるなと思いましたが、生徒たちは知らない行事や言葉も多いのではないかと思います。行事で言えば、「もぐらもちおくり(1月15日・幸(さい)の神・ドンドン焼)」や「毘沙門さまの押し合い(3月3日;はだか押し合い)」「地蔵祭り(6月23日;子どもが灯籠を作って村を練り歩く)」という行事もあったようです。昔話では「三枚のお札」という有名な話も地域の昔話として載っています。「あったてんがの、」という話始めから昔話は始まったようです。等、ほんの数年前の様子が、約半世紀程で、ずいぶん変化をしたのだなと感じました。



三送会 2/21

